

令和8年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース  
学校教育専攻

沖縄県内地域指定推薦  
一般推薦

共通問題

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
6. 解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

## 問 題

次の文章は杉本厚夫氏の『自分のことは自分でしない—子どもの臨床社会学—』（2002年）という著書の一部です。

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

**非公開**

非公開

非公開

非公開

# 非公開

(杉本厚夫 (2002). 「自分のことは自分でしない—子どもの臨床社会学—」 ナカニシヤ出版, 9～23 ページ, 抜粋・一部改変)

- 問 1 下線部①に関して、筆者はコミュニケーションできない子どもたちとはどのような子どもたちで、そのような子どもたちが作られていく原因は何であると考えていますか。本文の内容を踏まえて 250 字以上 300 字以内で述べなさい。
- 問 2 下線部②に関して、あなたの経験を踏まえたうえで、人との繋がりを紡ぎ出し、豊かな人間関係を育む小学校の教育実践について、1,000 字以上 1,200 字以内で論じなさい。

# 令和8年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

## 小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース  
学校教育専攻

沖縄県内地域指定推薦

一般推薦

共通問題

### 出題の意図

教育学部では、アドミッション・ポリシーとして、(1) 教員として主体性をもち、子ども及び社会と関わっていきいたい人、(2) 教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人、(3) 高等学校での基礎学力を身に付け、思考力・判断力・表現力をもつ人、(4) 沖縄の歴史的・環境的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人を求めている。

本出題文は、臨床社会学者である著者が、子どもたちがコミュニケーションの取り方を分からないということは、非社会性の問題（不登校、退学、ひきこもりなど）を引き起こす原因の一つになるのではないか、という指摘を行った文章である。

問1は、子どもたちがコミュニケーションできなくなる要因に関して、出題文の趣旨をきちんと把握できているかを問う設問である。

問2は、子どもたちが小学校でコミュニケーションの取り方を学ぶ上で、教育実践としてはどのようなことが可能であるのかについての考えを問う設問である。

これらの問いを通じ、学校教育専攻のアドミッション・ポリシーを踏まえて、(1) 教育や子どもに関する知識・理解、(2) 小学校教員として必要な思考力・判断力・表現力、(3) 小学校教育に対する意欲・関心をみる。